

住民の役に立つ仕事を!

— 城下町もさわやか笑顔のスタートです

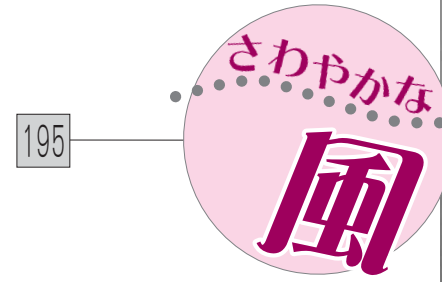


さくら咲く 4月、新しい仲間が各自体に入ってきた。競争率30倍という難関を突破して岸和田市に採用された新規採用職員の3人に登場してもらった。「早く職場に慣れて住民の役に立ちたい」とはつらつと話してくれた。左から堀内涼子さん、高見美智子さん、内田文奈さん

職場はいま一市公労れない保育所分会結成、わたしの出番「ニューヨーク共同行動大阪自治労連代表団団長です」尾崎一美さん(2-3面)/現地ルポ「郵政民営化を考える」(4-5面)/自慢の一品「手作りこんにゃく」(6面)/さわやかな風「核兵器廃絶を求めニューヨークへ」守口市職労 池田壮さん(8面)

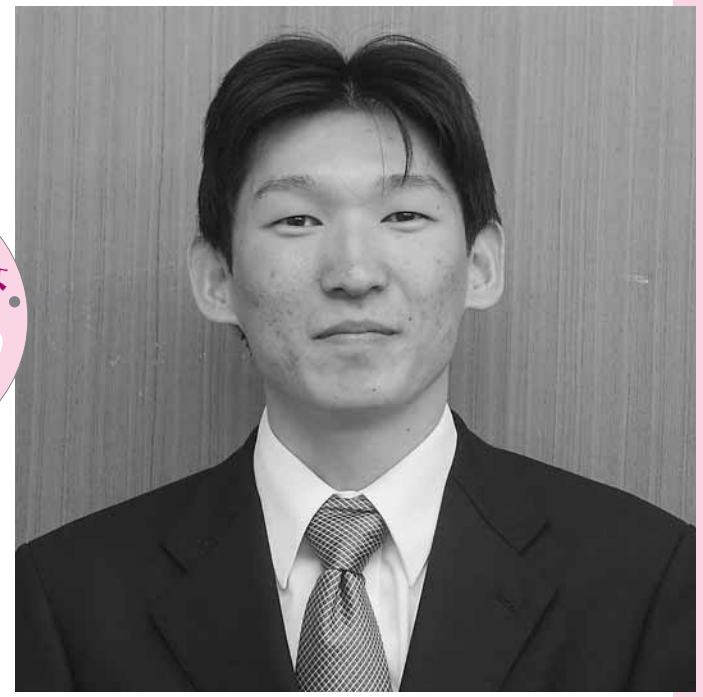
NPT(核不拡散条約)再検討会議への要請など世界的な規模で核廃絶行動がニューヨークで開催される。大阪自治労連から代表団11人が参加するが、その中で最も若い23歳の池田壮さんに話を聞いた。

核兵器廃絶を求めニューヨークへ



NPT再検討会議
ニューヨーク100万人共同行動
大阪自治労連代表団

池田 壮さん
(守口市職労)



平和のためならなんでもやろう

守口市職労の書記として昨年7月に採用された池田さん。以前に民間会社で2年間働いたことがあり、労働組合のイメージは民間と同じで企業(市役所)の中だけで運動をやっているものと思っていた。ところが市民と一緒に幅広い運動を外でやっていることに驚いたという。「自治体の労働組合のイメージが大きく違ってました。公務員労働者と住民の方が一緒にいろんな運動をしていることは新しい発見でした」と就職当時に振り返る。昨年守口市職労でとりくんだ合併の是非を問う住民投票の運動について「市民にわかってもらえるように訴えることの難しさを痛感しました。でも、住民自治と民主主義を守った運動など貴重な体験ができて良かったし、誇りに思います」と語る。こんな池田さんの趣味をたずねると「2年前まではバイクでツーリングをしていましたが、今はドライブ。この前の休みの日は京都の大徳寺へ行ってきました」と若者らしい答えが返ってきた。

3年前に池田さんのおじいさんが亡くなった。こ



のおじいさんは戦争に行き戦場で様々な体験をしたらしいが、その話を直接聞きたかったがついに聞けずじまいで、このことが残念で心残りとなっている。そのこともあり、平和問題について今できることは何でもするという姿勢になった。

期待いっぱいのニューヨーク

ニューヨーク行動参加については「せっかくだから行くので、広い視野で平和について考えたい。世界の人々が平和についてどう考えているか実感してみたい。体験したことは持ち帰りみんなに伝えたい」と積極的だ。「習い始めた英会話が実際に通用するのか。13時間も狭い密閉された飛行機の中でもつかどうか、耐えられるか心配です」と一抹の不安もあるが、4月30日の出発までは精力的に署名を集めたいと北河内地区協のジョイントフェスティバルで署名を集める予定になっている。

小学校の修学旅行で広島へ行き、原爆ドームや平和資料館を見学したがよく覚えていなかった。2003年に広島平和資料館を訪れじっくりと見ることができた。あらためて、驚いたと同時に、原子爆弾の悲惨さ恐ろしさを痛感し、今でも記憶に残っているという。「平和の尊さ、核兵器廃絶の強い思いをニューヨークへ持っていき、世界の動きとつなぐことができたならなあ。被爆60年、熱い思いを世界に広げたい」とすがすがしく語ってくれた。

編集後記

「国民投票法案」の国会提出の動きが強まっている。法案骨子では、自治体労働者が国民的議論や国民投票の運動に参加することを禁止している。この他にも国の憲法を大いに議論することを規制するという大きな問題がある。まさに憲法の改悪を強行する手段となっている。国会に提出させない運動を強めよう。